

SSC

～ともに生きる社会をめざして～ 第142号

完全参加と平等

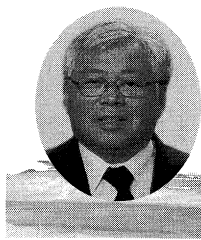
編集 NPO法人 埼玉県障害者協議会
編集責任者 田中 一
〒330-8522 さいたま市浦和区大原3-10-1
埼玉県障害者交流センター内
TEL 048 (825) 0707 FAX 048 (825) 3070
メールアドレス ssk080321@bz03.plala.or.jp

発行 NPO法人 埼玉県障害者協議会
〒330-8522 さいたま市浦和区大原3-10-1
埼玉県障害者交流センター内
TEL・FAX 048 (833) 7027

発売日 毎月10日、20日、30日

定価 一部 100円(購読料は会費に含まれます)
(共同募金からの助成金の一部で作成しています)

障害を理由とする差別をなくし、障害のある人もない人も分け隔てられることなく、お互いに人格と個性を尊重しながら、地域の中で共に手を取り合って暮らすことのできる社会、心のバリアをなくすことで障害のある人もない人も全ての人が参加しやすい社会『共生社会』を考える事が大切です。



令和3年度（第41回） 総会を振り返って

特定非営利活動法人 埼玉県障害者協議会 代表理事 た な か はじめ
田 中

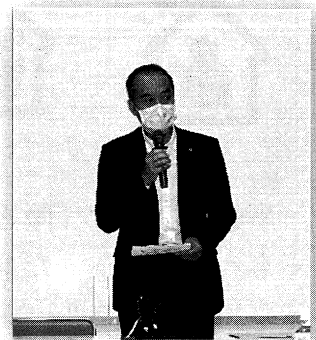
●はじめに

昨年から続くコロナ禍で迎えた令和3年度（第41回）総会が5月29日、感染対策を講じながら埼玉県障害者交流センターで開催しました。昨年度は、節目となる40周年の総会でしたが、残念ながら緊急事態宣言が発出され役員を中心に限られた人数での開催であったことを思うと、通常の形で開催できたことは少し「安堵」しました。

例年ですと、日頃お世話になっている多くの来賓の方々を迎えてご祝辞と励ましのお言葉をいただくのですが、今年度は感染拡大防止のため大野元裕埼玉県知事代理福祉部障害者福祉推進課長鈴木康之様、障害者団体の活動拠点である埼玉県障害者交流センター所長

黒沢隆久様を来賓に迎え祝辞をいただきました。

毎年行っている総会前の特別研修会は残念ながら感染拡大防止のため昨年に続き中止せざるを得ませんでした。ワクチン接種が進み、一日も早くコロナ前の日常を取り戻せることを願うばかりです。



障害者交流センター所長 黒沢隆久様

●次の50年に向け第一歩踏み出した総会

埼玉県障害者協議会は、県内の様々な障害者団体36団体が加盟する団体加盟の組織です。コロナ禍にもかかわらず多くの正会員に参加をいただきました。提案した議案は、令和2年度事業・決算・監査報告案、令和3年度事業計画・予算案、令和3年度・4年度の役員選任案でしたが、慎重審議の結果原案どおり可決承認されました。なお、改選された役員は別掲のとおりです。

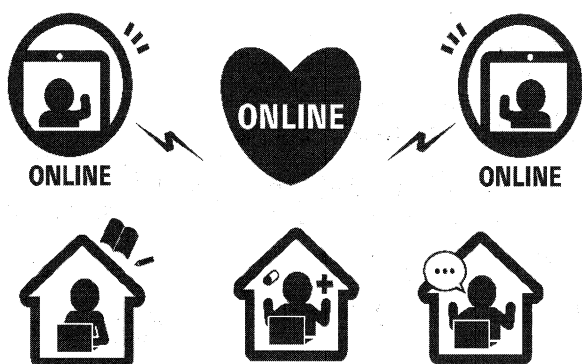


障害者福祉推進課長 鈴木康之様

(1) 事業計画のめざすもの

令和2年度は、コロナ禍で会議、研修等の

事業も書面開催や中止になるなど活動の停滞が余儀なくされましたが、私たちがコロナ禍で学んだ教訓は、オンライン開催という新しい手法でした。コロナ禍で人との接触の機会を極力少なくすること、移動手段等で参加が困難であった障害者が自宅で居ながらにしての参加が可能になり、対面で集まることなく会議、研修等ができることは、これからの新しい活動の形態として可能性を広めました。



事業計画では「障害者を締め出す社会は弱くもろい」から「だれもが安心して生きられる平和でインクルーシブな社会」の実現をめざし活動をすすめます。コロナ禍の社会にあってさまざまな制約がある社会になり、誰もが困難や生きづらさを感じています。このような時だからこそ加盟団体はもとより多くの関係する諸団体、県民とも連携して、障害者権利条約を拠り所にして、地域社会で実践することにより「ともに生きる社会」をめざして活動していくことの必要性を提案しました。



(2) 障害者・難病患者をコロナから守る
新型コロナウイルスが変異する中で、感染

拡大の収束が見通せず、見えない恐怖と不安が今年度も続いています。障害・難病のある人々への新型コロナウイルス感染拡大を防止して地域でも施設でも安心安全に暮らせるための取り組みと働きかけを提案しました。

新型コロナウイルス感染拡大による、障害者・難病患者の命・健康・暮らしを守り、全身性重度障害者がコロナに感染したときは、最優先で療養先の確保ができることが必要です。そして、医療逼迫が続くいかなる状況においても「命の選別」があってはなりません。

ワクチン接種がすすんでいます。障害・難病のある人への合理的配慮を行うとともに、家族、障害者施設等に従事されている人へのワクチン接種、PCR検査が早急に実施できること、また感染症対策の拠点である保健所の増設、保健師、予算の確保、感染症に対応できる病院の確保と機能の充実を求める事を提案しました。

●むすびに

埼玉県障害者協議会の活動は多岐にわたっています。県内の障害者団体を代表する組織として、大きな役割を担っています。

40年の歩んできた歴史の重みを改めて噛み締め、「ともに生きる社会」をめざし新たな一歩を踏み出した総会になりました。

今後とも皆様の御支援・御指導を切にお願い申し上げます。



NPO 法人 埼玉県障害者協議会 令和 3・4 年度 理事・監事の紹介

	所属団体	理事	監事	備考
1	一般社団法人 埼玉県身障者問題をすすめる会 代表理事	田 中 一		代表理事
2	埼玉県精神障害者家族会連合会 相談役	飯 塚 壽 美		副代表理事
3	社会福祉法人 埼玉県身体障害者福祉協会 会長	種 村 朋 文		副代表理事
4	埼玉県膠原病友の会 会長	万 谷 葉 子		副代表理事
5	埼玉視覚障害者の生活と権利を守る会 事務局長	平 野 力 三		
6	きょうされん埼玉支部 事務局長	古 澤 潔		
7	公益社団法人 日本オストミー協会 埼玉県支部 副支部長	八木田 吉 成		
8	障害者の生活と権利を守る埼玉県民連絡協議会 副会長	國 松 公 造		
9	特定非営利活動法人 埼玉障害者センター 常務理事	若 山 孝 之		
10	特定非営利活動法人 埼玉県腎臓病患者友の会 事務局長	村 瀬 幾 代		
11	一般社団法人 埼玉県聴覚障害者協会 代表理事	小 出 真一郎		
12	公益社団法人 埼玉県視覚障害者福祉協会 代表理事	田 口 茂		
13	一般社団法人 埼玉県障害難病団体協議会 代表理事		鍛 治 屋 勇	
14	埼玉肝臓友の会 会長		渡 辺 孝	

＝ 新役員の紹介 ＝

- 理 事 村 瀬 幾 代
(特定非営利活動法人埼玉県腎臓病患者友の会)
- 理 事 小 出 真一郎
(一般社団法人埼玉県聴覚障害者協会)
- 理 事 田 口 茂
(公益社団法人埼玉県視覚障害者福祉協会)
- 監 事 渡 辺 孝
(埼玉肝臓友の会)



埼玉県内
障害者団体の
活動と交流拠点

「団体交流室」の入室団体を募集!



埼玉県障害者交流センター内に障害者団体の活動と交流を深める壁一つない団体交流室があります。平成2年4月1日に設置され、31年が経過しています。全国的にもあまり例がない身体・精神・知的・難病などさまざまな障害を持つ人、関係者、障害者団体の活動と交流の拠点になっています。NPO 法人埼玉県障害者協議会（県内の障害者団体36団体が加盟）が、埼玉県から委託を受けて管理運営をしています。現在専任の職員を置き、机・パソコン等設置して活動している専用団体が13団体、ポストだけ置いて活動の所在地にしている利用団体が8団体あります。車いすユーザーの団体、聴覚障害の団体、難病患者の団体など様々な団体がコロナ禍でも交流を深め元気に活動しています。

現在専用団体の4机が空席になっていますので、ぜひこの機会と一緒に活動を始めてみませんか。ご利用をお待ちしています。

入室した場合、埼玉県障害者協議会に加入して、一緒に活動していきます

- (1) 団体交流室使用料は、毎月4,000円です（光熱費含む）。事務机、椅子などは貸与します。
- (2) 製本ができるなど多用途な印刷機、コピー機など事務機器が所定の料金で利用できます。
- (3) 研修旅行、レクリエーション、親睦会などを開催して、交流を深めています。

<賛助会員募集のコーナー>

私たちは、埼玉県障害者協議会の活動を応援しています。

一般社団法人埼玉県障害者スポーツ協会

一般社団法人埼玉県障害者スポーツ協会は、すべての人にスポーツを楽しんでほしい。「競技」だけでなく、日常的に取り組めるスポーツ活動を応援したい。をスローガンに日々活動しています。障がいがあるなしにかかわらず、健康で元気に生活するために、スポーツの持つ様々な要素・スポーツの力が必要です。今後とも、埼玉県障害者協議会同様ご支援ご協力をお願いいたします。

オフィスベンダー

文具・事務用品・オフィス家具のスーパーストア

〒337-0042さいたま市見沼区南中野241-1

<https://www.office-vender.com/>

<賛助会員加入のお願い>

埼玉県障害者協議会の目的に賛同しご協力頂ける、個人及び団体を募集しております。賛助会員には年8回の会報の送付、各種研修会・講演会などのご案内を送付いたします。賛助会員の会費は、年一口2,000円です。入会をご希望の方は、下記の口座へお振り込み下さい。



<郵便振替> 【口座番号】00130-9-673233 【口座名称】特定非営利活動法人 埼玉県障害者協議会

編集後記

まだまだコロナ対策に明け暮れる中オリンピック・パラリンピックも現時点では、どういう形にせよ開催されるようです。「矢張りやらなければ良かった!」とならないよう祈るばかりです。

酷暑もだんだん迫ってきます、水分補給を適切に「早くコロナ前の生活に戻りたい」と願いつつ、少しでも明るく・楽しく・元気良く毎日を過ごしましょう。

〈八木田〉